



がん診療拠点病院として 手術から放射線治療まで 包括的ながん支援体制を確立

平成27年4月に大阪府がん診療拠点病院に指定され、よりがんの治療率向上を目指す佐藤病院。最新の医療技術や高精度の機器の充実を図るほか、同グループの男山病院や他院との連携で、今後ますます地域医療の発展に貢献するだろう。



社会医療法人 美杉会 佐藤病院
河合 泰博 院長

スムーズな地域連携を確立

美杉会や他院との連携により 地域全体で住民を守る

枚方・八幡市を中心に地域密着型の病院としての役割を担い、また継ぎ目のない地域包括ケアに力を注ぐ佐藤病院。急性期病院として、重篤な患者に専門的な医療で対応するほか、美杉会グループの連携を強みに介護・在宅まで幅広い分野で地域のニーズに添えている。「当院は120床の病床を備え、29の診療科で1日450名からの患者さんを受け入れています。救急診療では24時間の受け付け、また内科・外科・整形外科は夜診を再開。さらに放射線治療に際しても夜診を実施し、患者さんの生活環境に応じて来院いただける体制を整えています」。佐藤病院が中核を担う美杉会グループには、在宅医療、訪問看護、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、健診センターなどの施設や設備が揃い、医療・保健・介護

がん診療拠点の役割

最新の技術と機器を備えた 高度ながん治療を提供

と住民の健康をフルカバーできるとあって地域には欠かせない存在だ。また放射線治療なら佐藤病院、緩和ケアなら男山病院など、それぞれの強みを活かして最適な治療を提供している。「当院は平成28年、男山病院は平成29年より電子カルテを導入したため、カルテの情報共有ができるようになり、よりスムーズな診療で患者さんの負担軽減につながりました。また地域医療連携システムでは情報通信技術を活用して医療機関との連携機能を強化。当院も市立ひらかた病院や星ヶ丘医療センターなどの開示施設と連携し、電子カルテを通じて患者情報を参照できるので助かっています。患者さんにとっても重複検査や重複処方方が避けられるため、大きなメリットとなるでしょう」。美杉会グループ内の連携や、他院との連携の強化に努める同院。地域住民がこの街に住んでよかったと思えるような環境づくりを目指し、今後ますます上質な医療を提供していきたいと河合院長は願っている。

地域を支える病院として

治療後の社会復帰を含め 様々な面からサポート

「当院は大阪府がん診療拠点病院としてがんに対する手術、放射線治療、化学療法を組み合わせた標準的な集学的治療に努めています。特に放射線治療に関しては、平成25年に高精度放射線治療センターを開設。照射範囲がミリ単位で制御できる最先端の放射線治療装置「パリスTx」を導入し、がん細胞をピンポイントで照射する治療を実施しています。さらに平成28年1月より前立腺センターを開設。前立腺がんに対してはIMRT（強度変調放射線治療）を採用し、根治治療に励んでいます」。また同院では乳がんに対する診断や治療にも積極的に取り組んでいる。例えば検査に関しては専門の認定医がマンモグラフィ読影、撮影をそれぞれ高い精度の高い診察及び検査を提供。またデジタルマンモグラフィ撮影装置をはじめ、充実の高性能機器で対応している。「乳がんの手術にICG蛍光法」を導入しました。これは乳輪にICGを注射した後、赤外光を照射し、体表から蛍光させたセンチネルリンパ節を確認。それを最低限の侵襲で採取する方法です。切開範囲を最小限にとどめることができるので、健康なリンパ節を残せるほか、見落としを極力防ぐことができます。あらゆるがん患者が安心して暮らせる社会。佐藤病院が目指す地域の在り方だ。

もちろん、がん治療への取り組みはこれだけにとどまらない。手術では3D腹腔鏡などを使用し、できる限り患者に負担の少ない治療を提供。また外来化学療法室では、リクライニング機能付電動チェアを設置し、リラクゼーションながら治療できる環境づくりを心がけている。「症状に合わせて様々な治療を組み合わせながら最適な方法をご提案できればと思います。患者さんが治療後も社会復帰できるようにサポートしていきます」。今後は病気を患ってもいかに人生を楽しく過ごすかがカギになる。生活を充実させるための病院として地域に寄り添いたいと河合院長は考えている。



大阪府がん診療拠点病院に指定された佐藤病院。大阪府下530病院のうち、約1割にあたる64病院が指定を受けている(平成28年6月現在)



1.原路性器がんに対しては診断から治療まで幅広く対応できる体制を整えている 2.腎がんなどに対応する手術では、3D内視鏡カメラを用いて腹腔鏡下で行う 3.細かく絞った放射線を集中的に照射する放射線治療装置【パリスTx】